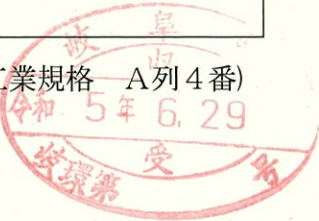


(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2023年 6月 29日	
岐 阜 県 知 事 殿	
提出者	
住 所 名古屋市中区錦二丁目2番13号	
氏 名 株式会社竹中土木 名古屋支店	
常務執行役員支店長 渡部 彰	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-231-2121	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社竹中土木 名古屋支店
事業場の所在地	愛知県名古屋市中区錦二丁目2番13号
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06：総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高：175,315万円
③ 従業員数	103名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

(日本工業規格 A列4番)



別 紙

○廃プラスチック

再生処理業者(選別)へ委託(処理後はプラスチック原料として再資源化)

○木くず

再生処理業者(破碎)へ委託(処理後はパルプ・紙原料として再資源化)

○がれき類

再生処理業者(破碎)へ委託(処理後は再生骨材・路盤材として再資源化)

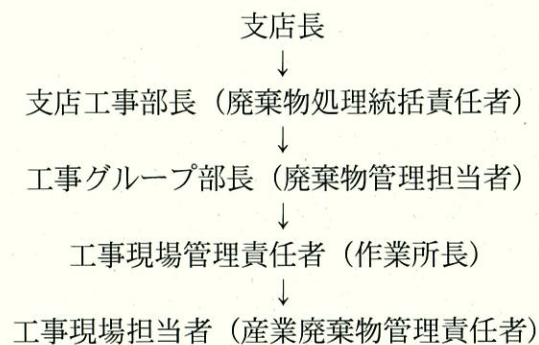
○紙くず

再生処理業者(選別)へ委託(処理後はパルプ・紙原料として再資源化)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙①の通り	
①現状	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙①の通り	
	排 出 量	t	t

		(今後実施する予定の取組)
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・がれき類、木くず、廃プラスチック・紙くずはそれぞれに分別して、他の廃棄物が混入しないよう保管。	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・上記を継続するとともに、朝礼、安全教育等で廃棄物の分別保管を徹底する。	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t

		(これまでに実施した取組)	
		—	
	②計画	【目標】	
		産業廃棄物の種類	—
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t
		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t
		(今後実施する予定の取組)	
		—	

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
—			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
—			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙②の通り	
	全 処 理 委 託 量	t	t

		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
		(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙②の通り	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄		5	

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙①

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】						
	産 業 廃 棄 物 の 種 類	廃ﾌﾟﾗｽチック	がれき類	木くず	混合廃棄物	紙くず	
	排 出 量	16.70 t	2590.15 t	211.91 t	2882.28 t	3.00t	
	(これまでに実施した取組) 分別保管の徹底により混合廃棄物類の排出抑制。						
②計画	【目標】						
	産 業 廃 棄 物 の 種 類	廃ﾌﾟﾗｽチック	がれき類	木くず	混合廃棄物	紙くず	
	排 出 量	10.00 t	1500.00 t	100.00 t	1000.00 t	1.50t	
	(今後実施する予定の取組) 継続して上記に取り組むと共に、昼礼及び作業員教育時に分別処理について再教育を実施する。						

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2022 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類		廃プラスチック	がれき類	木くず	混合廃棄物	紙くず	
	全処理委託量		16.70 t	2590.15 t	211.91 t	2882.28 t	3.00t	
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	9.45 t	2.52 t	8.20 t	2880.20 t	0t	
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	7.25 t	2587.63 t	203.71 t	2.08 t	3t	
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0t	
		認定熱回収業者以の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0t	
(これまで実施した取組) 再生処理(再資源化)業者を選定すると共に、委託基準やマニフェスト交付義務等の法令を遵守した上で、処理を委託する。								
② 計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類		廃プラスチック	がれき類	木くず	混合廃棄物	紙くず	
	全処理委託量		10.00 t	1500.00 t	100.00 t	1000.00 t	1.50t	
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	8.00 t	1200.00 t	80.00 t	800.00 t	1.50	
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	2.00 t	300.00 t	20.00 t	200.00 t	0t	
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0t	
		認定熱回収業者以の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0t	
(今後実施する予定の取組) 上記に加え、優良な処理業者を選定すると共に、当該委託業者について定期的に現地の確認をする様に努める。								